



タイル名称統一100周年記念 巡回企画展

空間を彩り、水や火から建物を守る「やきもの」

日本のタイル100年

美と用のあゆみ

JAPANESE "TILE"
A Century of Beauty and Utility



2022年4月9日(土)～8月30日(火) APRIL 9 - AUGUST 30, 2022

主催 INAXライブミュージアム

企画 INAXライブミュージアム、多治見市モザイクタイルミュージアム、江戸東京たてもの園

監修 藤森照信 (建築史家、建築家)

展示デザイン 中原崇志、永田耕平 [DENBAK-FANO-DESIGN]

※ 新型コロナウイルス感染症の状況により会期・イベント等、実施内容が変更になる場合があります。公式ウェブサイトに掲載の「感染拡大防止対策」をご確認のうえ、ご観覧をお願いします。



INAX ライブミュージアム

日本のタイル100年 美と用のあゆみ JAPANESE "TILE" A Century of Beauty and Utility

2022年 4月9日(土)～8月30日(火) APRIL 9 - AUGUST 30, 2022

会場 INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」企画展示室

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 水曜日(祝日の場合は開館)

共通入館料 一般 700円、高・大学生 500円、小・中学生 250円(税込、各種割引あり)

[巡回予定] 多治見市モザイクタイルミュージアム: 2022年9月～(予定) / 江戸東京たてもの園: 2023年3月～(予定)
※会場ごとに展示構成が異なります。詳細は各館ウェブサイト等でご確認ください。

建物の壁や床を覆う薄板状のやきものは、すべて「タイル」と呼ぼう——100年前の1922(大正11)年4月12日、東京・上野で開催されていた「平和記念東京博覧会」に合わせて全国のタイル業者が東京市に集まり、呼び名の統一を決めました。当時、「敷瓦」「腰瓦」「張付煉瓦」「化粧煉瓦」「タイル」など25以上の名称が使われ、不便解消のための策でした。また、会場内にタイルづくりの特設館が出展され、タイルが大々的にアピールされるなど、1922年は日本のタイル史に刻むべく特別な年とも言えます。

タイルは、古代エジプトのピラミッド地下空間壁面を飾ったものが起源とされています。高温で焼かれるため水や火に強く、腐食しにくく汚れを落としやすい特性から、数千年の時を経て世界各地に広まりました。日本では6世紀の仏教伝来とともに、神社仏閣や土蔵など建築物の床や壁にやきものが使われ始めます。大きな転換点は、文明開化により西洋からタイルや煉瓦、テラコッタを用いた建築文化が伝わったことです。輸入品を手本にタイルの量産化が始まり、地震や感染症の流行などの大事を経ながら、生活様式の変化や都市化に合わせて日本独自のタイル文化が花開きます。

生活空間を守るとともに心豊かに彩ることができるタイル。本展では、名称統一以前までに醸成されてきたタイル文化の変遷を振り返りながら、台所、トイレや洗面所、銭湯・温泉、ビルや大学、地下鉄の駅、たばこ屋など、さまざまな場で多種多彩に使われてきた日本のタイル100年のあゆみを時代背景とともに紹介します。タイルの魅力に改めて気づき、可能性を考えるきっかけとなれば幸いです。



1 東京タイル業組合が平和記念東京博覧会(1922年)に出展した「タイル館」。出典:高梨由太郎編『平和記念東京博覧会書帖』洪洋社 2 小森忍が東京・鳥居坂の岩崎小彌太本邸(1929年竣工、1945年焼失)食堂外壁用として、山茶窯(愛知・瀬戸)で制作したタイル。3 山内逸三が昭和初期に制作した装飾タイル。左上は宇野製陶所(京都)で制作したと考えられ、ほかは錦窯山内タイル製陶所(岐阜・笠原町)にて制作。4 イギリス製の組絵タイルを手本に日本のタイルメーカーが制作したもの。2・4: INAXライブミュージアム蔵 3: 多治見市モザイクタイルミュージアム蔵

The flat ceramic pieces used to cover building walls and floors—"Let's call them all 'tiles'."

One hundred years ago on April 12, 1922, tilers from all over Japan gathered in Tokyo in connection with the "Tokyo Exposition for Peace" in Ueno Park, Tokyo and decided to unify the names of ceramic wall and floor coverings all under one name. This they did to eliminate inconvenience, for more than 25 names were in use at the time. The year 1922 can be called a special year in Japanese tile history. Featured at the venue was a special pavilion exhibiting varieties of tiles, and tiles received great attention in Japan at this time.

Tiles are said to have originated in ancient Egyptian pyramids for the purpose of decorating underground spaces. Because they are fired at high temperatures, tiles are resistant to fire, water, and corrosion. They are also easy to clean. Due to their convenience, their use spread all over the world in the course of several millennia. Tiles appeared in Japan along with the introduction of Buddhism in the 6th century, when flat pottery pieces began to be used on the floors and walls of shrines, temples, and storehouses. Centuries later, a major turning point came with the arrival of Western civilization and introduction of Western architecture using tiles, bricks, and terracotta. Using imported tile products as a model, the mass production of tiles got off the ground, and Japan's distinctive tile culture bloomed in response to urbanization and changing lifestyles, not to mention the dangers posed by earthquakes and infectious disease epidemics.

Tiles protect living spaces and impart rich color to living. Over the past century, they have become widely used in kitchens, toilets and washrooms, public baths and hot springs, buildings and universities, subway stations, and tobacco shops. This exhibition takes visitors through the 100-year history of "tiles" since the unification of the name, while recalling the diverse tile culture fostered in Japan during many centuries. We invite you to rediscover the charm of tiles and ponder their potential.

関連イベント

展覧会開催記念シンポジウム 「タイルのこれまでとこれから」

ゲスト

藤森照信 [ふじもり・てるのぶ]
建築史家、建築家。東京大学名誉教授、
東京都江戸東京博物館館長、
多治見市モザイクタイルミュージアム名誉館長

若林 亮 [わかばやし・まこと]
株式会社日建設計 フェロー役員デザインフェロー

日時

2022年4月12日(火) 15:00-16:30
(YouTubeによるオンライン配信)

参加費

無料 / 事前申込制

お申込み方法、詳細については当館公式ウェブサイトをご覧ください

BEYOND 100 YEARS
BEYOND TILE

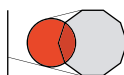
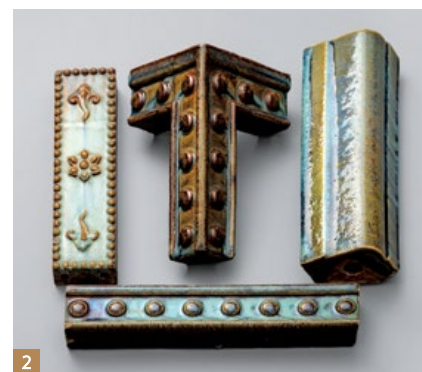


写真: 梶原敬英(1をのぞく)
展覧会ロゴ・デザイン: 松田行正+梶原結実

全国タイル工業組合は、2022年4月12日でタイル名称統一100周年となることから、4月12日を「タイルの日」として記念日登録するとともに、記念のロゴマークを制作しました。

タイル名称統一
100周年記念サイト
Touch The Tiles

LIXIL
スペシャルサイト



INAXライブミュージアムへのアクセス

バス

- 名鉄線「常滑駅」または中部国際空港より知多バス「知多半田駅」行き「INAXライブミュージアム前」下車徒歩2分

お車(乗用車・バス駐車場完備)

- 名鉄線「常滑駅」より約6分
- 中部国際空港より約10分(「りんくうIC」降りる)
- セントレアライン(名古屋方面から)「常滑IC」より約7分
- 知多半島道路「半田IC」より約15分



INAXライブミュージアム

〒479-8586 愛知県常滑市奥栄町1-130
Tel 0569-34-8282 Fax 0569-34-8283
<https://livingculture.lixil.com/ilm/>
INAXライブミュージアムはLIXILが運営する文化施設です。